

2014 年度目録委員会記録 No.1

第 1 回委員会

日時：2014 年 4 月 26 日（土）14 時～17 時 00 分

場所：日本図書館協会

出席：原井委員長、木下、河野、田代、津田、古川、渡邊

<事務局>磯部

[配布資料]

1. ISBD 調査回答（国立国会図書館）（7 ページ-A4、原井委員長）
2. ISBD 調査回答（目録委員会）（7 ページ-A4、原井委員長）
3. NCR 作業体制（案）（1 ページ-A4、原井委員長）
4. 第Ⅱ部ユニット H 形態事項案メモ（3 ページ-A4、渡邊委員）
5. 第Ⅱ部ユニット H 形態事項（案）（35 ページ-A4、渡邊委員）
6. RDA における電子資料の数量の記録（1 ページ-A4、古川委員）
7. 上位書誌レベルの記録に関する基本問題（3 訂版）（3 ページ-A4、古川委員）
8. 資料に関する記録 ユニット F 版に関する事項（9 ページ-A4、本多前委員）
9. 注記に関する検討 201404（10 ページ-A4、平田委員）
10. 用語表現検討リスト（12 ページ-A4、田代委員）
11. 第 2 部属性→<属性の記録>→セクション 2→第 2 章体现形 ユニット D タイトル（基礎レベル）（36 ページ-A4、河野委員）
12. 第Ⅱ部 資料に関する記録 ユニット E 責任表示（基礎レベル）（12 ページ-A4、木下委員）
13. 2013 年度第 10 回目録委員会記録
14. 2013 年度第 11 回目録委員会記録（案）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第 11 回記録案（資料 14）について確認した。

2. ISBD の調査（資料 1、2）

IFLA の目録分科会 ISBD レビューグループが行っている ISBD の利用の調査について、原井委員長が目録委員会の回答案を作成した。5 月 7 日締切で修正意見を集め、回答を行う。

3. NCR 作業体制について（資料 3）

原井委員長が NCR 作業の 2014 年度の今後のスケジュールを提案した。未着手のところは著作と表現形の記述で、注記と重なる部分があるので注記と一緒に作業を行う。形態事項

の中で表現形にかかわるところなども、エレメントのレベルでリストアップし、今年度後半に分担を決める。

4. 昨年度検討した資料について（資料 8、11、12）

昨年度検討分のタイトル、責任表示、版については、ML 上で 5 月 16 日までに修正意見を提出する。その修正を踏まえて、5 月 19 日の週に確定し NDL に引き渡す。

5. NDL の検討の進捗状況

津田委員から、アクセス・ポイントの部分の検討結果の途中案を返すためコメントを集約しているところで、5 月中旬をめぐりに目録委員会に送ることが報告された。内容は属性総則などは条項名だけになる可能性があるが、著作、表現形、個人・家族・団体の部分について、属性の部分と構築の部分とを提示できる予定。5 月に中間報告を提示し、その後に最終案を提示する予定である。

[検討事項]

1. 第Ⅱ部ユニット H 形態事項（資料 4、5）

渡邊委員から形態事項についての説明があった。

- ・ 昨年 6 月 22 日付けの村上委員の素案を元に作成した。
- ・ 複数のキャリア種別からなる資料に関する規定を通則に移している。素案では資料種別ごとの数量を一行に列記する例を示しているが、RDA に沿ってエレメントの繰り返しで表現することとする。
- ・ 数量について RDA で別エレメントになっているものは、する方向で整備する。
- ・ RDA にある語彙は取り込むことを基本にする。NCR にもともとあった語彙も取り込むようにしている。オブジェクト（博物資料）などについて、RDA と NCR にあるものとの間で整理が必要である。
- ・ 大きさのところの条項が RDA のアルファベット順のままになっている。キャリア種別でないものもありキャリア種別順は難しいので、五十音順を考えている。また数量で別エレメントになっているものについても表現種別順にする必要がある。
- ・ 印刷資料以外の規定や語彙で訳語が分からないものがある。
- ・ 数量のところ、構成部分を対象にする場合の数量の規定がまだ入れ込めていない。
- ・ ページ数の細かな規定について、RDA にあるもの全部を入れるかどうか検討が必要である。
- ・ 現行 NCR を引き継いで、キャリアが標準規格の場合に大きさの記録を省略する規定を設けているが、RDA にはこの種の規定はなく、検討が必要である。
- ・ 地図と静止画の大きさについて、RDA では画面の大きさを記録する。本案では現行 NCR を引き継いで、地図について紙等の大きさを記録するとしているが、RDA ではこの方式は別法にもなっておらず、検討が必要である。
- ・ 「基材」以下のほとんどのエレメントで、語彙リストからの選択以外に Details という条

項があって、注記的な記述例が挙げられている。エレメント・アナリシスを見ても別のエレメントがあるわけではなく、どういう入力を想定しているのか分からないので本案に反映していない。

- ・語彙のリストには RDA の英語を添えたが、今のところ条項としては目録用言語に英語を用いることは考慮していない。

次いで、以下のとおり検討した。

- ・標準規格の大きさの省略は、本則は省略しないで書き、任意省略にするのはどうか。日本は省略が普通なので、規定自体は必要である。

- ・資料名を並べるとき、単純な五十音順は使いにくく、当該資料が所属する資料種別順に並べる方が使いやすいのではないか。このことは形態事項だけにとどまらず、全体に検討すべきである。

- ・ページ数の記録について、RDA に存在する規定はいったんは入れてみて、不要と思うものはカットし、任意省略をある程度つけるというスタイルにする。

- ・現行 NCR と RDA との語彙が対応しないものについて、「墨跡」など日本（東洋）特有のものは追加する。RDA の語彙と重なりながら一対一対応しないものは、そのまま追加するとメタデータレジストリ整備等の段階で問題が予想されるので、検討が必要である。

- ・地図の大きさの記録については、静止画は NCR も画面の大きさを記録することになっており、RDA に合わせた記録とし、別法をつけるのがよいのではないか。

2. RDA における電子資料の数量の記録（資料 6）

古川委員より以下のとおり説明と意見が述べられた。

- ・形態事項のデジタル・ファイルの特性については、訳語の五十音順より RDA 本文のように重要度の順序にした方がよい。

- ・電子資料の数量は RDA では物理的数量と電子的数量の二つに分かれ、後者は byte 等を単位とするファイルサイズを記録する。前者は、他の資料と同じくユニットの数量とキャリア種別を記録するので特別な規定は必要ないが、例示に必ず含める必要がある。下位ユニットの数量は、その数量とファイル種別を、ユニットの数量とキャリア種別に続けて記録する。旧来の資料が内容であるものはファイル種別にそれらに使用する単位を転用する。新 NCR 内では、物理的数量の規定と電子的数量の規定が、別々に位置づけられることになるので、相互参照をつけて体系を暗示することが必要になる。

- ・H.1.2A の「『コンピュータ』もしくは『マイクロ』で、文字資料および展示資料、地図資料、楽譜資料、静止画像で構成されるときは」という表現が分かりにくいので、手直しが必要である。

3. 上位書誌レベルの記録に関する基本問題（資料 7）

古川委員より以下のとおり説明があった。

・構成レベルに関する規定と例示を追加する必要があるが、雑誌記事索引の規定を **NCR** に取り込むためにはいくつか問題がある。

・シリーズ表示の位置にはシリーズだけでなく、セットもの、単行書、逐次刊行物など様々なものが記録されているのでこの用語の名称を変える必要がある。シリーズ・セット表示や上位タイトル表示という案が考えられる。上位タイトル表示は **NCR** の上位下位の階層に合わせた表現なので、**RDA** の全体 - 部分という言葉とは合わないが、これがいいのではないか。

・**RDA** の上位書誌レベルの記録の規定には、体现形の属性として転記の原則に基づいてシリーズ表示を記録するものと、全体 - 部分の関連を記録するものの 2 種類があるが、両者の切り分けが不分明である。著作相互の全体 - 部分の関連は典拠形アクセス・ポイントのかたちで表現されるため、シリーズ表示との競合は生じないが、体现形相互の関連は転記形に基づいた形で表現するため、そのままシリーズ表示になってしまい、シリーズ表示と構造的な記述との違いがなくなる。シリーズ表示はコア・エレメントで、体现形相互の関連は非コアなので、こういう対立が生じた場合、体现形相互の構造的な記述を規定する必要はないのではないか。

・出版事項とページ付は両方ともコア・エレメントだが、どこに所属させるか。**AACR** と雑誌記事索引ではページ付を下位の方に位置付け、**ISBD** ガイドライン、**NCR** は上位の方に位置付けている。どちらにするか根底となる考え方を決める必要がある。また出版事項が記録されていない例があるが、どこかに記録する必要がある。

・シリーズ表示が上下の関係で複数あったとき、昇順と降順のどちらで記録するか。**NCR** 本則は上から下へ記録する。**NCR** 付則では下から上になっている。本則にあるように記録した方が分かりやすい。

・**Numbering** を逐次刊行物では順序表示と訳しているが、シリーズ表示では番号とっていいのか。

以下のとおり検討した。

・シリーズ表示に代るものとしては上位タイトル表示という言い方が良いのではないか。その場合、**subseries** の訳をどうするかという問題がある。下位シリーズという言葉を使わずに上位の中に段階があることを表したいが、一方で **RDA** のエレメントとずれることは避けたい。

・関連はある実体と他の実体のかかわりを表し、実体の識別自体は終わっているというのが前提で、関連によって識別ができるというのはおかしいと思われる。シリーズ表示は体现形を識別するためのもので、重複するとしても関連とは役割が違うものではないか。関連であるものが転記形で表されるというのは問題がある。

・出版事項とページ付は **AACR**、雑誌記事索引の方が良いのではないか。その記事は何ページという結びつきの方が分かりやすい。

・シリーズ表示の昇順と降順の問題は、上から下というのが分かりやすい。出版事項はコ

ア・エレメントだが、どう表示するかは目録規則では決めない。あるいは構成レベルでは出版事項をコア・エレメントにしないという選択もある。

・連載記事の回数に部を使うのは違和感があり、回にした方がよいのではと思われる。各巻号とページ数との対応がないとデータとして使いにくい。

・**Numbering** をシリーズ順序表示とするのは違和感がある。シリーズという言葉を使うときは番号の方が合っているが、上位タイトルという言葉だと順序表示という言葉の方が合うのではないか。

以 上

次回以降の委員会の予定

5月24日（土）

6月28日（土）